

震災の恩返しと国際交流

私の郷土、高島町は古くから有機農業の先進地として知られています。また、町内に拠点を置く企業を通じて台湾との深い交流があり、高島町は十数年前から台湾との産業振興と観光に関する取り組みを継続しています。そのような中、2024年4月に台湾東部地震が発生し、花蓮縣を中心に大きな被害をもたらしました。花蓮縣は、高島町と同じく美しい田園風景が広がる米どころです。かつて2011年の東日本大震災の際、台湾の皆様が私たちに寄せてくださった多大な支援への恩返しも含めて、高島町では他ではできない前例のない支援の形を検討しました。義援金を送るといった一般的な支援だけではない、独自性のある支援の形として選んだのは、「花蓮の米を高島町で輸入し、高島町の日本酒醸造元の技術で台湾史上最高の清酒を造ることで、日本と台湾の経済活性につなげる」ということです。

このプロジェクトは、多くのプロフェッショナルによる「職業奉仕」の連鎖を生みました。高島町役場商工観光課の方々、日台農業交流の第一人者である林定三氏、そして物流と広報を支えるJR東日本台湾事業開発の皆様。それぞれの専門性を持ち寄り、一つの志に向かって突き進みました。そして2025年1月、ついに完成したのが「米鶴 清酒 福（ふく）」です。花蓮の生産者の誇りと、高島の蔵人の技術が融合した「絆の結晶」となる、前代未聞の清酒です。これを携えて、2025年2月には高島町長、高島町観光協会長、高島町商工会長とともに、台北市内、花蓮縣の各地での発表イベントを開催し、交流を深めました。さらにこの活動は、高島町を選挙区にかかえる今の農水大臣・鈴木憲和氏にも伝わり、鈴木氏が懇意にされていた台湾の駐日大使館に相当する台北駐日経済文化代表處に紹介する機会をいただくことにもなりました。

現在、この「福」は、台北駐日経済文化代表處の晩餐会において、各国の賓客をもてなす一杯として採用されています。

2026年1月、今年もまた1600本という限られた数ながら、最新の「福」が仕上がりました。「台湾の米で、世界に通用する最高の清酒を醸す」という気概をもって醸しました。

本年6月中旬に、台北で開催されるロータリー国際大会において、この「米鶴清酒 福」が、世界中から集うロータリアンの皆様の交流の一助となることができれば、これに勝る職業上の喜びはございません。